

未来につなぐ地域づくり

この座談会は、盛岡市町内会連合会会長と盛岡を盛り上げる活動を行うサークルに所属する学生が、地域づくりに対する想いを共有しながら、意見交換を行ったものです。

主催：盛岡市、盛岡市町内会連合会、玉山地域自治会連絡協議会

地域活動に興味を持ったきっかけ

- 五味：まちづくりサークルに入ろうと思ったのは、どうしてですか？
- 今川：高校生の時に参加した遠野市でのワークショップがきっかけです。そこで、地域の問題が本当に深刻になっていると間近に感じました。その後も、まちづくりの活動に参加していて、大学に入っても活動は続けたいと思っていたので、このサークルに入りました。
- 照内：1年生の頃はコロナで一人ぼっちで、まずは友達が欲しいというところから始まって、元々地域政策に興味があったので、このサークルに入ってみようと思ったのが、最初でした。
- 五味：前から地域に興味があったと言ってましたが、どうして地域に興味があったのでしょうか？
- 照内：地元の北秋田市は、過疎や少子高齢化といった問題が全国より進んでいる場所でした。日頃からそういう問題が目につき、何かできることはないかと思っていました。



座長
岩手大学人文社会科学部
教授 五味 壮平 さん
(東京都出身)

私の住む盛岡はこんな場所

- 小枝指：盛岡は、信奉的な山があって、街中に大きな川や小さな川があるなど自然環境が良い。田舎だけど都会の部分もあり、良いまちだと思います。自分の住んでるところが良いところだとか、住み続けたいと思わないと、良いことをやろうとはなりません。
- 五味：佐々木さんは盛岡出身ですが、盛岡をどう思いますか。
- 佐々木：私は、盛岡の人の温かさを感じています。私も、刺激的なものがたくさんある都会に憧れる気持ちを持っているけれど、盛岡では穏やかな自然を感じたり、些細な変化を感じる感性が磨かれると思います。そういった心のゆとりが盛岡の住みやすさや安心感に繋がっていると思います。それが盛岡の魅力の一つだと感じるようになりました。

盛岡が抱える課題

- 五味：小枝指さんとしては、今日の3人のような将来を担う若者たちがたくさんいて希望がみえると思いますが、一方で、今、どういう課題を感じていますか。
- 小枝指：少子高齢化と言われて久しいです。最近身近に感じるようになりました。私の家もそうですが、子供はずっと首都圏で生活しています。周りを見ても、空き家や一人暮らしが多くなっています。孤独を感じている人を地域に引っ張り出して、支え合う、触れ合う場を作っていかなければと思っています。また、担い手がいない、参加者が減ったという課題がどこでも聞かれますが、なぜ来ないのか、やり方に問題ないか、気付いて取り組むことが大事だと思います。

学生と地域とのつながり

- 五味：学生の皆さんは地域づくりや地域そのものに関心があり、盛岡も好きということですが、佐々木さんは町内会との繋がりを実感することはありますか。
- 佐々木：小・中学生までは子ども会があったので町内会との繋がりを感じましたが、今は感じられていないというのが正直なところです。
- 今川：年齢が上がっていくにつれ、勉強や部活で忙しくて、地域との関わりが薄れてきたとも思いますが、私の住む地域には大きなお祭りがあり、その時になるとみんな戻ってきて、お祭りに参加すると「やっぱいいよな」とその地域の良さを改めて感じることはあります。



話し手
盛岡市町内会連合会
会長 小枝指 好夫 さん
(盛岡市出身)



話し手
岩手大学まちづくりサークルNPCN
3年 佐々木 みらい さん
(盛岡市出身)

- 五味：照内さんはいろいろな形で地域に関わる一方で、今はアパートに住んでいて、近くの人との繋がりはありますか？
- 照内：全然。高松に住んでいて、地域には学生しかいない感覚です。地域の方と会うことはないし、地元だと地域の方に挨拶していましたが、盛岡に来てからなくなったので、大きな街に来たと感じています。盛岡は学生が多く、ずっと住むわけではないので、町内会に参加しないでいいと思う人は一定数いると感じます。
- 五味：私も、自分のマンションの住民とは関わりがない生活を送っていて、何と矛盾しているんだと思っています。地域づくりへの関心と自分が生活する地域と乖離している。そこが結び付くと大学と地域の関係も変わると思いますが、でも、近いがゆえに構えてしまう部分があるの

かな、なんて想像するのですが、学生と地域の間取り方は、昔と比べて変わっていますか？

小枝指：高松は共同住宅が多く、何年かで引っ越し人が多い。そうすると、ゴミ出し一つにしても、地域で出し方が違うので、トラブルになることが多い。

- 五味：本人を知っていて、どういう人か分かっていたら、嫌な気はしないと思いますが、知らないと、また学生が…というイメージが出てしまうのだらうと思います。例えば、地域と学生の間、お互い顔を知ってちゃんと挨拶をするという関係ができれば、気持ちいいですね。そんな関係を作ることができないかと考えるのですが、何か良いアイデアはないですか。
- 小枝指：最近寂しいと思うのは、子どもが減り、町内の運動会をやらない地域が増えてきたことです。運動会は、幅広い年代が一緒の場所で和気あいあいと楽しめます。何か地域で交流できることをやりたいです。
- 佐々木：私の地元でも運動会があり、ここに来れば友達に会えるから参加する、ということがありました。一つのコミュニティになっていたと思います。



話し手
岩手大学まちづくりサークルNPCN
2年 照内 雄貴 さん
(秋田県北秋田市出身)

まとめ

- 五味：若者がどういう感覚で街を見ているか、どういうことに関心を持っているか。また、ということが地域に起きていて、どこに問題があるか。そして、どうしたら学生と地域の距離を縮められるかという意見交換でしたが、皆さんいかがでしょうか。
- 照内：私たちの記憶の中で、町内会と関わっていた記憶が小・中学生で止まっていると思います。大人に近い若者、高校生や大学生が関わっていくことができる仕組みが町内会の中にあると、若者が参加できて、大人になっても地域に関わるというところに繋げることができると思います。
- 五味：町内会という単位を今後どのくらい大事にしていくか、そういうことを考える必要もあると思います。
- 小枝指：町内会に学生も含め、幅広く、いろんな分野の人に参加してもらうことで、関係が広がると思います。顔なじみになって、冗談や文句が言えるくらいの仲になれたらいいと思います。
- 五味：何らかのかたちで、学生も一緒に地域に関わるようになれば、日本でもなかなかない地域づくりに繋がっていくと思いました。(終わり)



話し手
岩手大学まちづくりサークルNPCN
1年 今川 そら さん
(北上市出身)